

EAC

平成31年度
富士山麓外来植物等調査業務委託

報 告 書
(抜粋)

令和2年1月

株式会社 環境アセスメントセンター

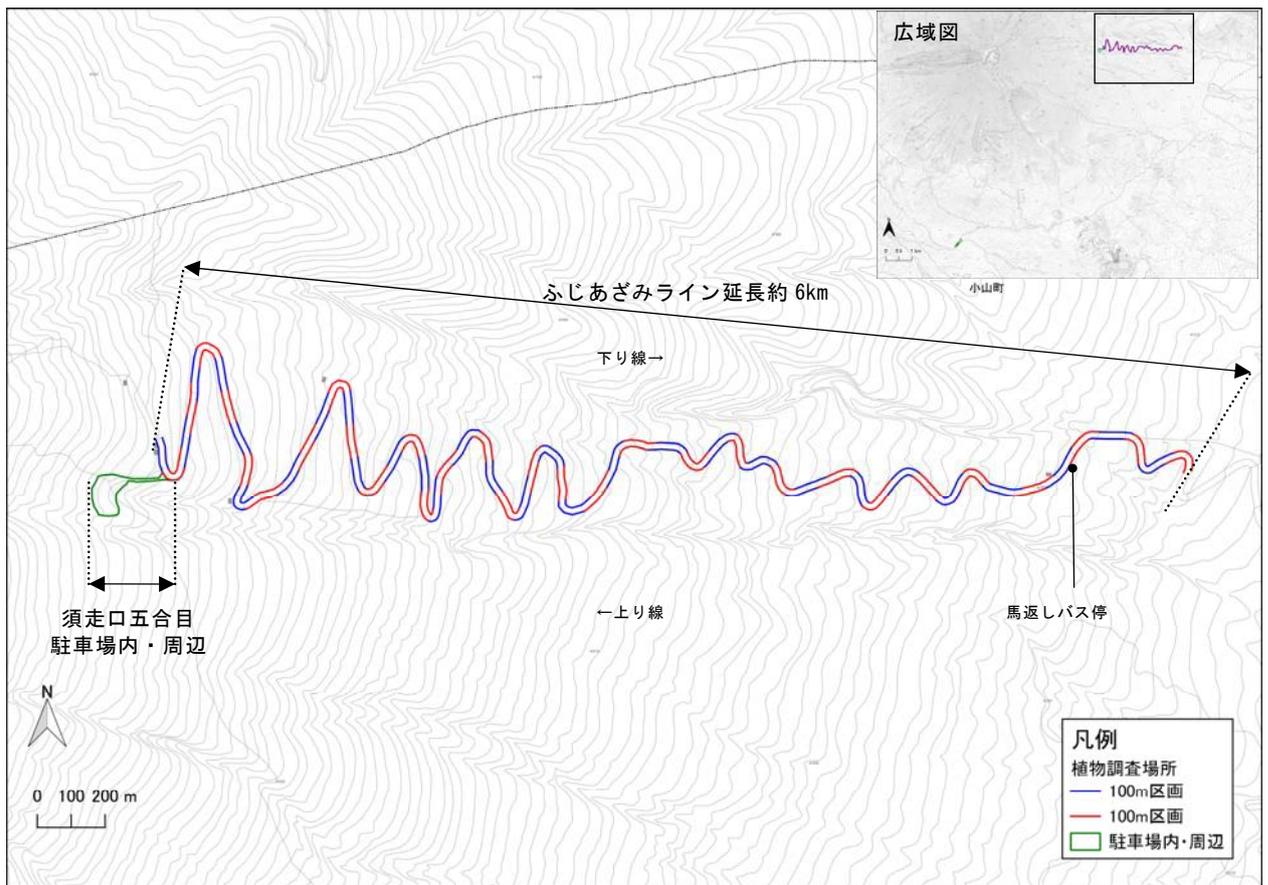


図 1.6.1 調査場所位置図（須走口五合目駐車場からふじあざみライン馬返しバス停付近）



図 1.6.2 調査場所位置図（西臼塚駐車場内）

表 1.6.2 外来植物選定基準

法律等	カテゴリ		
特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号）（最終改正：平成 26 年 6 月 13 日 法律第 69 号）【外来生物法】	特定外来生物 （最終更新：平成 30 年 4 月 1 日）	外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもの。	
我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（環境省報道発表資料「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）」の公表について（お知らせ）、平成 27 年 3 月 26 日） 【生態系被害防止外来種リスト】	定着予防外来種	侵入予防外来種	国内に未侵入の種。特に導入の予防、水際での監視、バラスト水対策等で国内への侵入を未然に防ぐ必要がある。
		その他の定着予防外来種	侵入の情報はあるが、定着は確認されていない種。
	総合対策外来種	緊急対策外来種	「外来種被害防止行動計画（環境省・農林水産省・国土交通省, 2015）」における対策の優先度の考え方（注 1）に基づき、被害の深刻度に関する基準①～④のいずれかに該当することに加え、対策の実効性、実行可能性として⑤に該当する種。特に緊急性が高く、特に各主体がそれぞれの役割において、積極的に防除を行う必要がある。
		重点対策外来種	「外来種被害防止行動計画（環境省・農林水産省・国土交通省, 2015）」における対策の優先度の考え方に基づき、被害の深刻度に関する基準として①～④のいずれかに該当する種。甚大な被害が予想されるため、特に、各主体のそれぞれの役割における対策の必要性が高い。
		その他の総合対策外来種	
産業管理外来種		産業又は公益的役割において重要であり、現状では生態系等への影響がより小さく、同等程度の社会経済的効果が得られるというような代替性がないため、利用において逸出等の防止のための適切な管理に重点を置いた対策が必要な外来種。利用にあたっては種ごとに示す利用上の留意事項（注 2）に沿って適切に管理を行うことを呼びかけるもの。	

注 1) 緊急対策外来種、重点対策外来種における対策の優先度の考え方
（被害の深刻度）

- ①生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大
- ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い
- ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い
- ④人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対し甚大な被害を及ぼす
（対策の実効性、実行可能性）
- ⑤防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る。

注 2) 利用上の留意事項

産業管理外来種については、利用の回避・抑制、侵略性のない代替種の開発・普及又はリスクを低減若しくは抑制するための管理の実施・普及が期待される。掲載種には種毎に利用状況や利用上の留意事項を記載しており、産業管理外来種については利用上の留意事項に沿って適切な管理を行うことが期待される。

2.2 外来植物

2.2.1 結果概要

外来植物は、コヌカグサ、カモガヤ、オニウシノケグサ、オオアワガエリ、ナギナタガヤ、エゾノギシギシ、ヒメジョオン、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポの3科9種309地点4,425個体を確認した。確認状況を表2.2.1に示す。特定外来生物の確認はなく、すべて生態系被害防止外来種であった。イネ科、キク科の外来植物の確認が中心であった。

調査場所別では、須走口五合目駐車場内・周辺ではセイヨウタンポポ1種を1地点で3個体確認した。ふじあざみラインでは、コヌカグサ、オニウシノケグサ、ヒメジョオン、セイヨウタンポポの4種32区画63地点で136個体確認した。西白塚駐車場では、オニウシノケグサを除く8種の外来植物を245地点で4,286個体確認した。

確認種別では、ナギナタガヤの個体数が最も多く1,813個体で、次いでヒメジョオン(1,150個)体、セイヨウタンポポ(1,046個体)の順であった。

表 2.2.1 外来植物確認状況

No.	科名	種名	外来植物選定基準		須走口五合目 駐車場内・周辺		ふじあざみライン						西白塚駐車場内				全体	
			外来生物法	外来種リスト	地点	個体	上り線			下り線			西側		東側		地点	個体
							区画	地点	個体	区画	地点	個体	地点	個体	地点	個体		
1	イネ	コヌカグサ	-	産業	-	-	1	1	10	-	-	-	-	-	2	80	3	90
2		カモガヤ	-	産業	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	8	13	9	18
3		オニウシノケグサ	-	産業	-	-	-	-	-	2	5	15	-	-	-	-	5	15
4		オオアワガエリ	-	産業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	270	5	270
5		ナギナタガヤ	-	産業	-	-	-	-	-	-	-	-	6	1,563	2	250	8	1,813
6	タデ	エゾノギシギシ	-	その他	-	-	-	-	-	-	-	2	16	1	1	3	17	
7	キク	ヒメジョオン	-	その他	-	-	-	-	-	3	3	3	28	220	49	927	80	1,150
8		セイタカアワダチソウ	-	重点	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	6	3	6	
9		セイヨウタンポポ*	-	重点	1	3	11	22	51	15	32	57	76	539	62	396	193	1,046
合計	3科	9種	0種	9種	1	3	12	23	61	20	40	75	113	2,343	132	1,943	309	4,425
					1地点 3個体		32区画63地点136個体						245地点4,286個体				309地点 4,425個体	

注) 外来植物選定基準

- ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成16年6月2日法律第78号)
- ・我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成27年3月26日公表)
- 【カテゴリ】重点:総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種) 重点対策外来種
その他:総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種) その他の総合対策外来種
産業:適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)

※:セイヨウタンポポは生態系被害防止外来種リストの「外来性タンポポ種群」に該当する。

2.2.2 種ごとの確認状況

外来植物の種別の確認状況を次項に示す。外来植物の解説については、主に環境省ホームページにおいて公表されている「生態系被害防止外来種リスト選定の根拠情報」より引用したが、必要に応じて「要注意外来生物に係る情報及び注意事項(環境ホームページ)※要注意外来生物リストは平成27年3月26日をもって発展的に解消されている」や図鑑等から引用し整理した。

(1) 総合対策外来種(重点対策外来種)

甚大な被害が予想されるため、特に、各主体(国、地方公共団体、国民等)のそれぞれの役割における対策の必要が高いと定義される、総合対策外来種(重点対策外来種)は、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポの1科2種を確認した。

1) セイタカアワダチソウ（キク科）

セイタカアワダチソウは、西臼塚駐車場で3地点6個体を確認した。確認地点の環境は縁石とアスファルト舗装の隙間、開けた明るい草地であった。地点数、個体数ともに少なく、西臼塚駐車場内におけるセイタカアワダチソウの定着段階は、定着初期と判断した。

セイタカアワダチソウの種の解説を以下に示す。

表 2.2.2 種の解説（セイタカアワダチソウ）

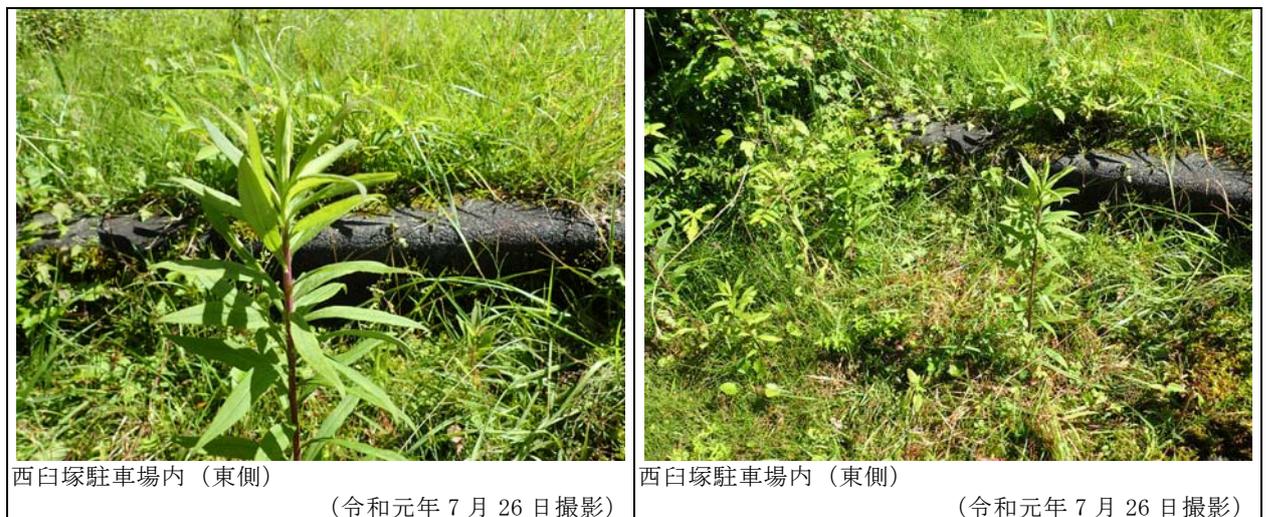
種名等 ¹⁾	セイタカアワダチソウ（キク科） 別名・流通名：セイタカアキノキリンソウ
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（重点対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	II. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件 ¹⁾	(被害の深刻度) ①生態系被害に係る潜在的な影響・被害が特に甚大である。 ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。 ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い。
特に問題になる 地域や環境 ¹⁾	湿原・湿地
原産地・分布 ¹⁾	北アメリカ原産。ヨーロッパ、アジアに分布する。国内へは観賞用植物として明治時代（1897年頃）に渡来、大正末期から野生化、戦後、急速に分布拡大。北海道、本州、四国、九州、琉球、小笠原に分布する。
特徴 ^{1),2)}	多年草。高さ2.5m。花期は8-11月。頭状花。虫媒花。瘦果は風などにより伝播される。地下茎により繁殖する。
生育環境等 ¹⁾	路傍、空地、河川敷、土手、原野、休耕地に大群落を作る。造成によって攪乱された環境が増えると繁殖する。
影響 ¹⁾	湿原、草原、河川敷、奄美地域など、生物多様性の保全上重要な環境や地域、または農業上問題となる場所では、対策の対象になっている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 2) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>

環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

表 2.2.3 セイタカアワダチソウの確認状況



西臼塚駐車場内（東側）

（令和元年7月26日撮影）

西臼塚駐車場内（東側）

（令和元年7月26日撮影）

表 2.2.4 セイタカアワダチソウ確認結果

No.	科名	種名	外来植物選定基準		須走口五合目 駐車場内・周辺	ふじあざみライン						西臼塚駐車場内		全体		
			外来生物法	外来種リスト		上り線		下り線		西側		東側		地点	個体	地点
					区画	地点	個体	区画	地点	個体	地点	個体	地点			
8	キク	セイタカアワダチソウ	-	重点	-	-	-	-	-	-	-	-	3	6	3	6

注) 外来植物選定基準

- ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号)
 - ・我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成 27 年 3 月 26 日公表)
- 【カテゴリ】 重点：総合的に対策が必要な外来種（総合対策外来種） 重点対策外来種

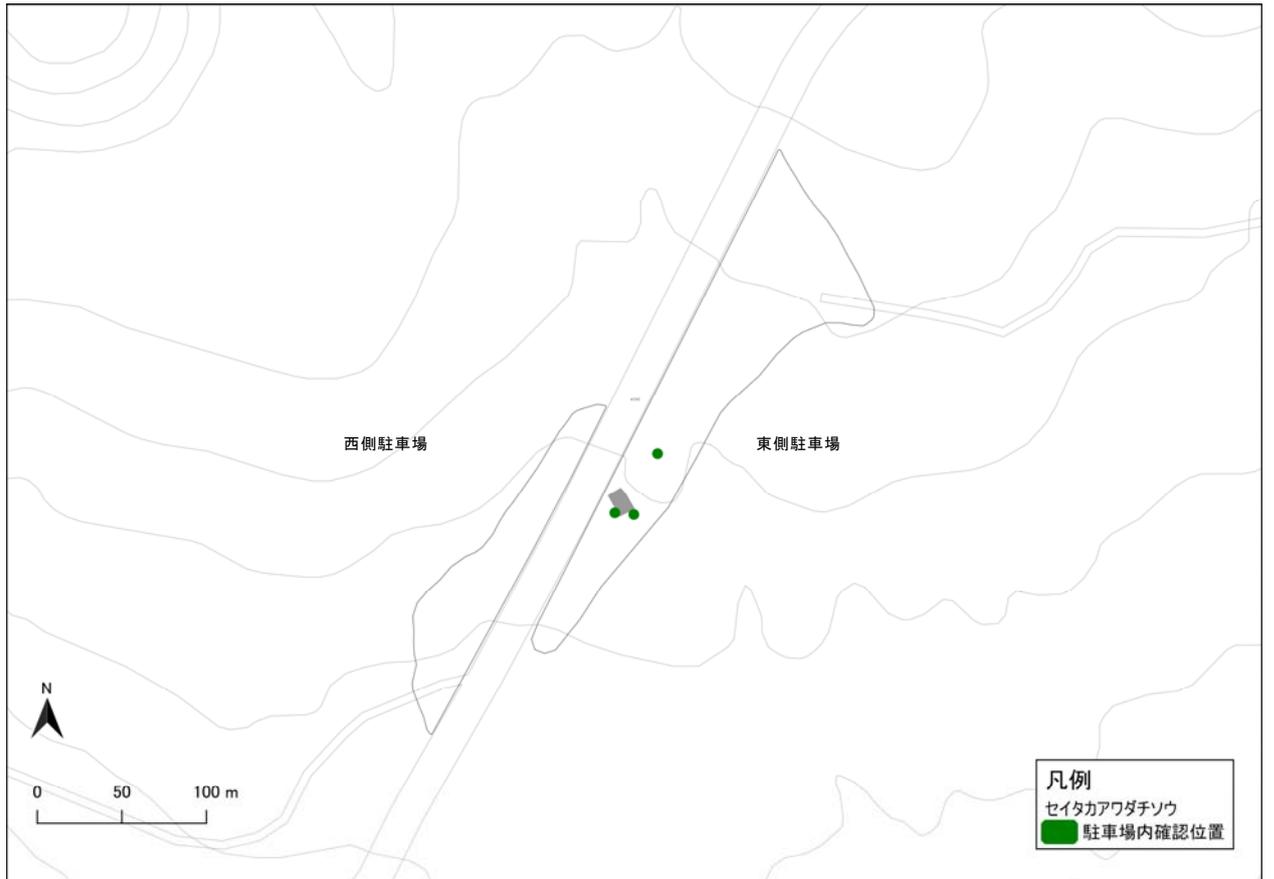


図 2.2.1 セイタカアワダチソウの確認位置図（西臼塚駐車場内）

2) セイヨウタンポポ (キク科)

セイヨウタンポポは、須走口五合目駐車場内・周辺で 1 地点 3 個体、ふじあざみラインで 26 区画 54 地点 108 個体、西臼塚駐車場で 138 地点 935 個体、計 193 地点 1,046 個体を確認した。セイヨウタンポポは、調査場所に広く分布し、特に西臼塚駐車場内では確認個体数が多かった。

確認地点の環境は、ふじあざみラインではアスファルト舗装の隙間、石垣、道路脇の草地で、西臼塚駐車場内では開けた明るい草地などであった。5 月、7 月の調査で開花・結実を確認した。

セイヨウタンポポの種の解説を以下に示す。

表 2.2.5 種の解説 (セイヨウタンポポ)

種名等 ¹⁾	セイヨウタンポポ (キク科) 生態系被害防止外来種リストにおける種名：外来性タンポポ種群
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種 (重点対策外来種)
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	I. 生態系被害のうち交雑が確認されている、またはその可能性が高い。 II. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件 ¹⁾	(被害の深刻度) ①生態系被害に係る潜在的な影響・被害が特に甚大である。 ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。 ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い。
特に問題になる 地域や環境 ¹⁾	自然草原や高山
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパ原産。世界中に分布する。国内へは 1940 年に北海道に渡来。北海道～九州、琉球、小笠原に分布する。
特徴 ^{1),2)}	多年草。高さは 10-40cm。花期は 3-5 月。単為生殖により結実する。瘦果は風、雨、動物、人間などにより伝播される。根茎切片による繁殖力は強く、どの部分の切片からも出芽する。
生育環境等 ¹⁾	市街地、道端、空き地、畑地、牧草地、芝地、樹園地、川岸、山地、高山の駐車場まで生育する。
影響 ^{1),2)}	繁殖力が強く、国立公園内の亜高山帯等の自然性の高い環境にも侵入し、在来種との競合のおそれがある。在来種との雑種が全国的にみられ、遺伝的攪乱が既に広く起こっていることが確認されている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報 (根拠情報) <植物>

環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 2) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>

環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

表 2.2.6 セイヨウタンポポの確認状況 (1/2)



ふじあざみライン上り線区画 No. 58
(令和元年 5 月 22 日撮影)



ふじあざみライン上り線区画 No. 60
(令和元年 5 月 22 日撮影)

表 2.2.7 セイヨウタンポポの確認状況 (2/2)



表 2.2.8 セイヨウタンポポ確認結果

No.	科名	種名	外来植物選定基準		須走口五合目 駐車場内・周辺		ふじあざみライン						西白塚駐車場内				全体	
			外来生 物法	外来種 リスト	地点	個体	上り線			下り線			西側		東側		地点	個体
							区画	地点	個体	区画	地点	個体	地点	個体	地点	個体		
9	キク	セイヨウタンポポ**	-	重点	1	3	11	22	51	15	32	57	76	539	62	396	193	1,046

注) 外来植物選定基準

- ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号)
- ・我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成 27 年 3 月 26 日公表)

【カテゴリ】重点：総合的に対策が必要な外来種（総合対策外来種） 重点対策外来種

※：セイヨウタンポポは生態系被害防止外来種リストの「外来性タンポポ種群」に該当する。

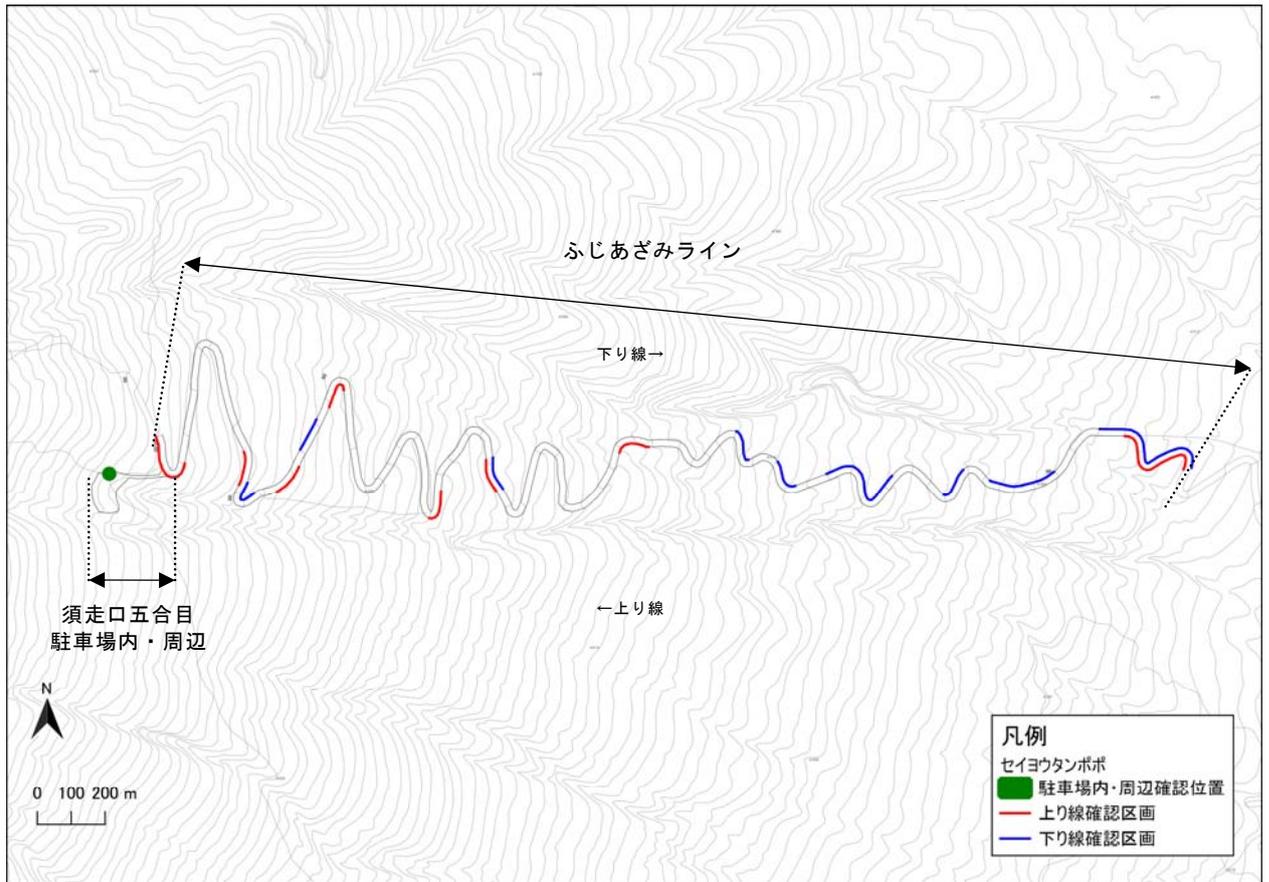


図 2.2.2 セイヨウタンポポの確認位置図（須走口五合目駐車場内・周辺からふじあざみライン馬返しバス停付近）

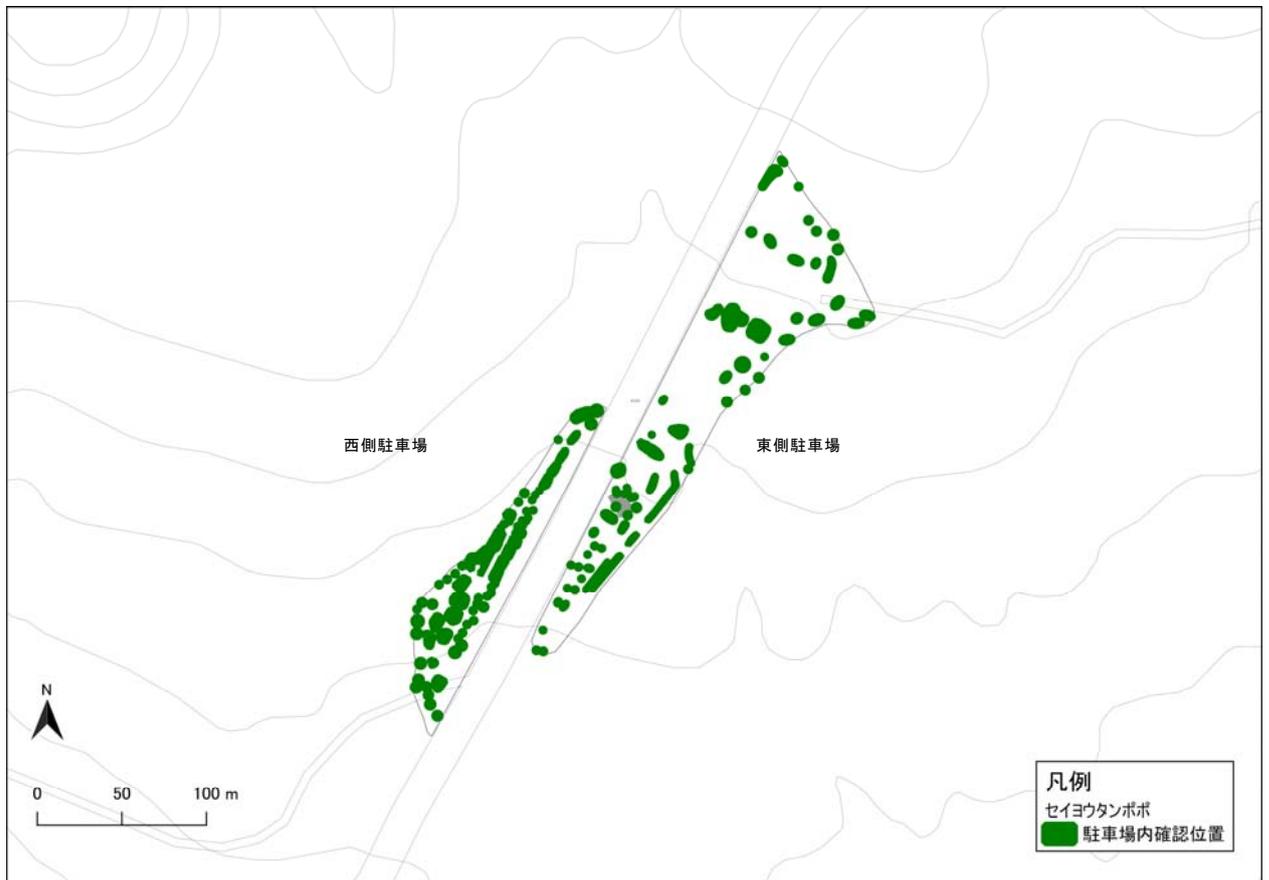


図 2.2.3 セイヨウタンポポの確認位置図（西臼塚駐車場内）

(2) 総合対策外来種（その他の総合対策外来種）

総合対策外来種（その他の総合対策外来種）は、エゾノギシギシ、ヒメジョオンの2科2種を確認した。

1) エゾノギシギシ（タデ科）

エゾノギシギシは、西臼塚駐車場で3地点17個体を確認した。確認地点の環境は林縁、開けた明るい草地であった。5月調査時にはロゼット葉、7月調査時に開花・結実を確認した。

エゾノギシギシの種の解説を以下に示す。

表 2.2.9 種の解説（エゾノギシギシ）

種名等 ¹⁾	エゾノギシギシ（タデ科） 別名・流通名：ヒロハギシギシ
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種（その他の総合対策外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	I. 生態系被害のうち交雑が確認されている、またはその可能性が高い。 II. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件 ¹⁾	
特に問題になる 地域や環境 ¹⁾	亜高山帯の自然草原や湿地、ノダイオウなどの在来ギシギシ類の生育地周辺。
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパ原産。北アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカに分布。国内へは明治中期頃に渡来。北海道、本州、四国、九州に分布する。
特徴 ^{1),2)}	多年草。高さは0.5-1.3m。花期は6-9月。両性花。瘦果は風、雨、飼料に混入して伝播される。1個体当たりの種子の生産量は5,000-100,000個、種子の寿命は20年以上との報告がある。根茎による繁殖力が強い。周年にわたって発生、生育し、耐寒性が強い。
生育環境等 ¹⁾	牧草地、樹園地、芝地、畑地、路傍、川岸、荒地、林地に生育する。耐寒性が強いとため、亜高山帯の自然公園などにも侵入する。
影響 ²⁾	北海道や、本州の亜高山帯にある国立・国定公園など、自然性の高い環境や希少種の生育環境に侵入し、駆除の対象になっている。世界的に牧草地、樹園地の強害雑草として知られている。一度圃場に入り込むと短期間で拡大する。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 2) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>
環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

表 2.2.10 エゾノギシギシの確認状況



西臼塚駐車場内（西側）

（令和元年7月26日撮影）

西臼塚駐車場内（西側）

（令和元年7月26日撮影）

表 2.2.11 エゾノギシギシ確認結果

No.	科名	種名	外来植物選定基準		須走口五合目 駐車場内・周辺	ふじあざみライン						西臼塚駐車場内				全体			
			外来生物法	外来種リスト		上り線			下り線			西側		東側					
					地点	個体	区画	地点	個体	区画	地点	個体	地点	個体	地点	個体	地点	個体	
6	タデ	エゾノギシギシ	-	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	16	1	1	3	17

注) 外来植物選定基準

- ・ 特定外来生物による生態系に係る被害の防止に関する法律(平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号)
 - ・ 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成 27 年 3 月 26 日公表)
- 【カテゴリ】 その他：総合的に対策が必要な外来種（総合対策外来種） その他の総合対策外来種



図 2.2.4 エゾノギシギシの確認位置図（西臼塚駐車場内）

2) ヒメジョオン (キク科)

ヒメジョオンは、ふじあざみラインで3区画3地点3個体、西臼塚駐車場で77地点1,147個体を確認した。

確認地点の環境は林縁や開けた明るい草地、路傍であった。5月調査時にはロゼット葉のみの確認であったが、7月、9月調査時にはロゼット葉、開花個体も確認した。

ヒメジョオンの種の解説を以下に示す。

表 2.2.12 種の解説 (ヒメジョオン)

種名等 ¹⁾	ヒメジョオン (キク科) 別名・流通名：-
外来植物 選定基準	外来生物法：- 生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種 (その他の総合対策外来種)
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	II. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件 ¹⁾	
特に問題になる 地域や環境 ¹⁾	山地や亜高山帯の草原
原産地・分布 ¹⁾	北アメリカ原産。ヨーロッパ、アジアに分布。国内へは江戸時代末期に渡来、明治初年には広く分布。北海道～九州に分布。
特徴 ^{1),2)}	一年草。高さ0.3-1.5m。花期は6-10月。瘦果は、風、雨、動物、人間により伝播される。1個体当たりの種子生産量は47,923個、種子の寿命が35年にも及ぶとの報告がある。根茎により繁殖する。
生育環境等 ¹⁾	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。土壌の種類を選ばない。低地から高山地帯まで生える。
影響 ^{1),2)}	農耕地の雑草になるとともに、国立公園の亜高山帯のような自然性の高い環境にも侵入し、在来植物との競合が問題となる。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報 (根拠情報) <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 2) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>
環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

表 2.2.13 ヒメジョオンの確認状況 (1/2)



表 2.2.14 ヒメジョオン確認状況 (2/2)



表 2.2.15 ヒメジョオン確認結果

No.	科名	種名	外来植物 選定基準		須走口五合目 駐車場内・周辺		ふじあざみライン						西白塚駐車場内				全体	
			外来生 物法	外来種 リスト	地点	個体	上り線			下り線			西側		東側		地点	個体
							区画	地点	個体	区画	地点	個体	地点	個体	地点	個体		
7	キク	ヒメジョオン	-	その他	-	-	-	-	-	3	3	3	28	220	49	927	80	1,150

注) 外来植物選定基準

- ・ 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号)
 - ・ 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成 27 年 3 月 26 日公表)
- 【カテゴリ】 その他：総合的に対策が必要な外来種 (総合対策外来種) その他の総合対策外来種

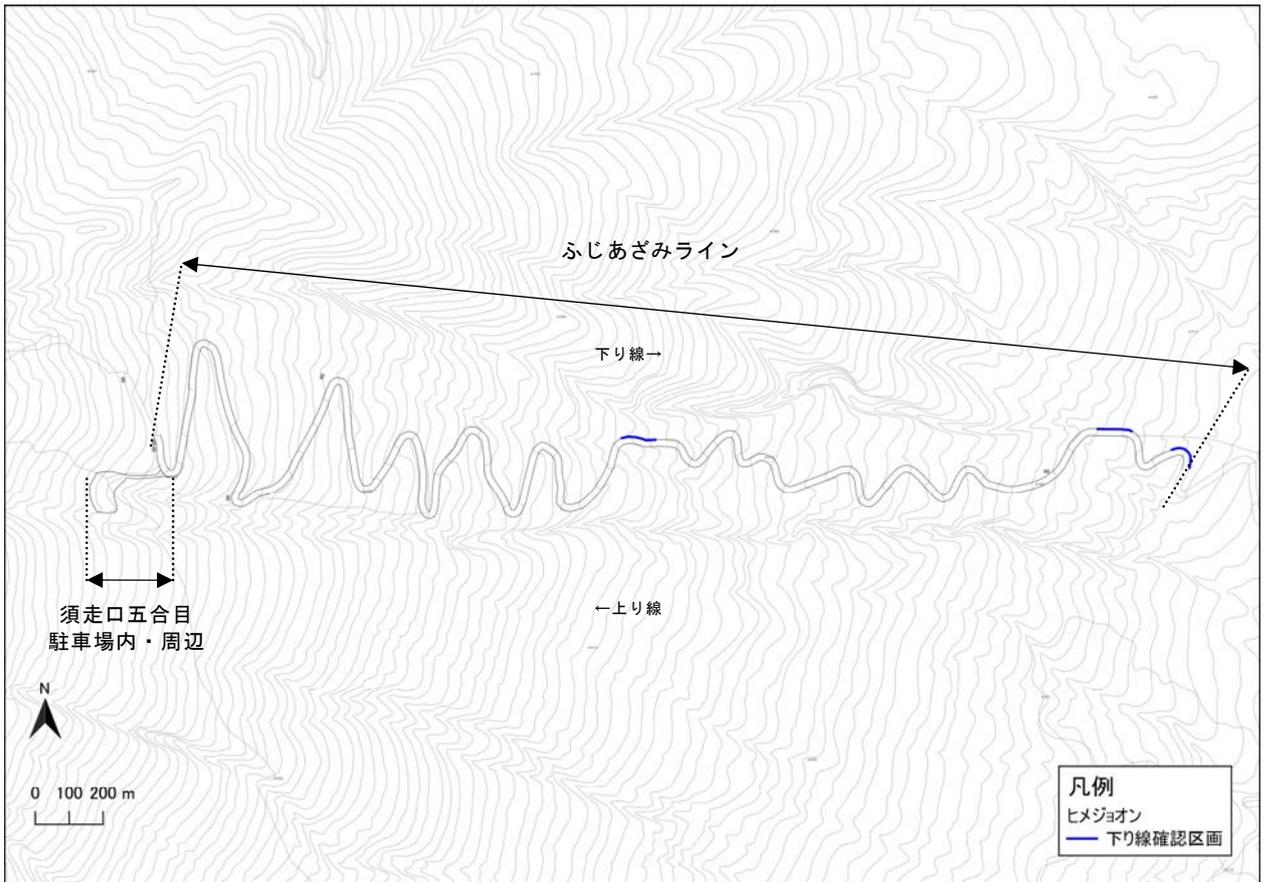


図 2.2.5 ヒメジョオンの確認位置図（須走口五合目駐車場内・周辺からふじあざみライン馬返しバス停付近）



図 2.2.6 ヒメジョオンの確認位置図（西臼塚駐車場内）

(3) 産業管理外来種

産業又は公益的役割において重要で、代替性がなく、その利用にあたっては適切な管理を行うことが必要と定義される、産業管理外来種は、コヌカグサ、カモガヤ、オニウシノケグサ、オオアワガエリ、ナギナタガヤの1科5種を確認した。

1) コヌカグサ（イネ科）

コヌカグサは、ふじあざみラインで1区画1地点10個体、西臼塚駐車場で2地点80個体を確認した。確認地点の環境は開けた明るい草地、路傍であった。7月、9月調査時に開花・結実を確認した。

コヌカグサの種の解説を以下に示す。

表 2.2.16 種の解説（コヌカグサ）

種名等 ¹⁾	コヌカグサ（イネ科） 別名・流通名：レッドトップ
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：適切な管理が必要な産業上重要な外来種（産業管理外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	I. 生態系被害のうち交雑が確認されている、またはその可能性が高い。 IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件 ¹⁾	
特に問題になる 地域や環境 ¹⁾	河川敷、絶滅危惧種のヌカボ属の生育地周辺
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパ原産。北アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等、温帯～亜寒帯に分布。合衆国やカナダで侵略的。国内へは明治初年に導入され、北海道、本州、四国、九州、琉球（奄美大島）に分布する。
特徴 ^{1),3)}	多年草。茎は0.5-1m。種子、地下茎及び匍匐茎で繁殖する。小穂は長さ2-2.5mm、少し光沢があって赤褐色をおびる。花期は5-7月。
生育環境 ¹⁾	畑地、牧草地、樹園地、路傍、草原、湿地、水辺などに生育する。日当たりの良い所を好む。耐寒性が強く、強酸性土壌に生え、耐旱性もある。湿潤であれば土壌の種類を選ばないが、一般に粘質土壌～壤土に多く、やせた土地にも適応する。
影響 ¹⁾	青森県や栃木県では自然草原に侵入し、問題となっている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物> 環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 3) 大橋広好, 門田裕一, 木原浩, 邑田仁, 米倉浩司(2016)改訂新版日本の野生植物 2 イネ科～イラクサ科, 平凡社.

表 2.2.17 コヌカグサの確認状況（1/2）



表 2.2.18 コヌカグサの確認状況 (2/2)



表 2.2.19 コヌカグサ確認結果

No.	科名	種名	外来植物選定基準		須走口五合目 駐車場内・周辺		ふじあざみライン						西白塚駐車場内				全体	
			外来生 物法	外来種 リスト	地点	個体	上り線			下り線			西側		東側		地点	個体
							区画	地点	個体	区画	地点	個体	地点	個体	地点	個体		
1	イネ	コヌカグサ	-	産業	-	-	1	1	10	-	-	-	-	-	2	80	3	90

注) 外来植物選定基準

- ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号)
 - ・我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成 27 年 3 月 26 日公表)
- 【カテゴリ】 産業：適切な管理が必要な産業上重要な外来種 (産業管理外来種)

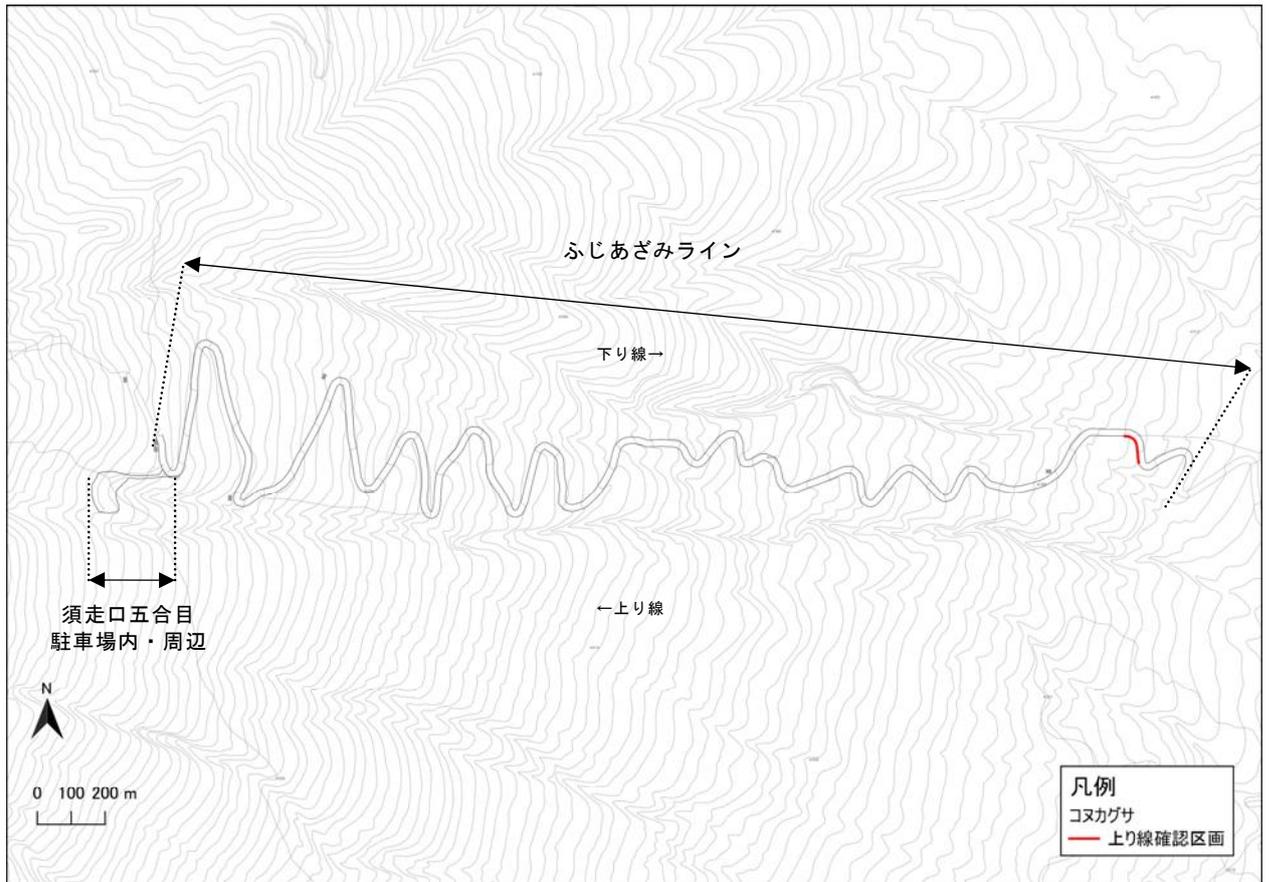


図 2.2.7 コヌカグサの確認位置図（須走口五合目駐車場内・周辺からふじあざみライン馬返しバス停付近）

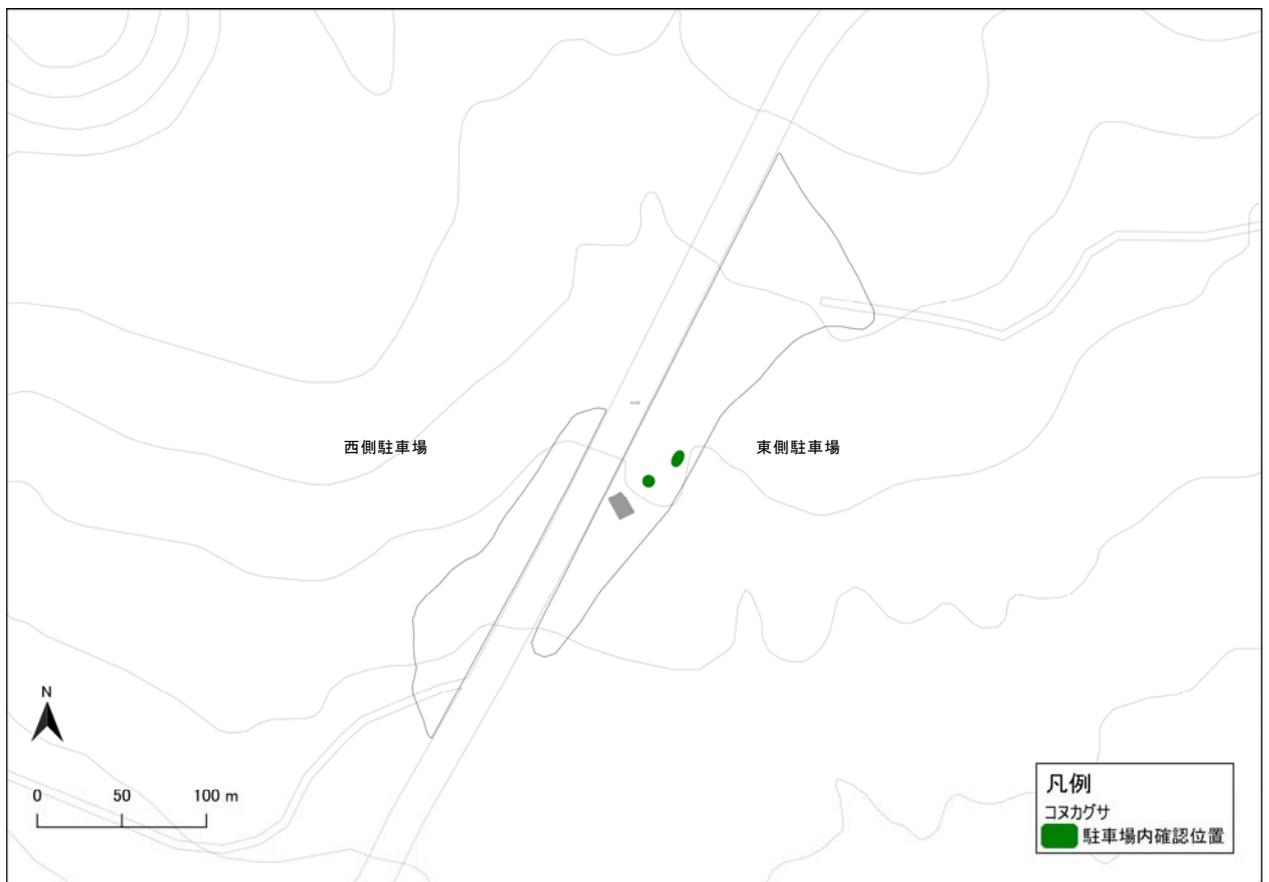


図 2.2.8 コヌカグサの確認位置図（西臼塚駐車場内）

2) カモガヤ（イネ科）

カモガヤは、西臼塚駐車場で 9 地点 18 個体を確認した。確認地点の環境は林縁、開けた明るい草地であった。7 月調査時に開花・結実を確認した。

カモガヤの種の解説を以下に示す。

表 2.2.20 種の解説（カモガヤ）

種名等 ¹⁾	カモガヤ（イネ科） 別名・流通名：オーチャードグラス
外来植物 選定基準	外来生物法：－ 生態系被害防止外来種リスト：適切な管理が必要な産業上重要な外来種（産業管理外来種）
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	II. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件 ¹⁾	
特に問題になる 地域や環境 ¹⁾	山地草原
原産地・分布 ¹⁾	地中海～西アジア原産。ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等の温帯に分布。国内へは 1861～1864 年（文久年間）に渡来。1868 年（明治初年）にアメリカから導入。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。
特徴 ^{1),2)}	多年草。高さ 0.4～1.5m。開花期は 7～8 月。種子の生産量は多く、風、雨、人間、動物に付着して運ばれるほか、家畜に食べられても生存し、糞に伴って遠方に運ばれる場合がある。土壌中における種子の生存期間は 4 年以上に及ぶ。根茎により繁殖するが、根茎は短く匍匐茎を伸ばさない。再生力は旺盛である。
生育環境 ¹⁾	畑地、樹園地、路傍、荒地、土手、草地、河川敷、林縁、湿地、沿岸域等に生育する。日当たりの良い温暖地で、肥沃な所を好むが、環境適応性は幅広い。耐陰性が強いことが特徴である。
影響 ¹⁾	北海道や本州の亜高山帯にある国立公園の自然草原へ侵入し、草原に特有な希少種等への影響が問題となっている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報（根拠情報） <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 2) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>
環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

表 2.2.21 カモガヤ確認状況



表 2.2.22 カモガヤ確認結果

No.	科名	種名	外来植物選定基準		須走口五合目 駐車場内・周辺		ふじあざみライン						西白塚駐車場内				全体			
			外来生物法	外来種リスト	地点	個体	上り線			下り線			西側		東側		地点	個体		
							区画	地点	個体	区画	地点	個体	地点	個体	地点	個体				
2	イネ	カモガヤ	-	産業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	8	13	9	18

注) 外来植物選定基準

- ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号)
 - ・我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成 27 年 3 月 26 日公表)
- 【カテゴリ】 産業：適切な管理が必要な産業上重要な外来種（産業管理外来種）

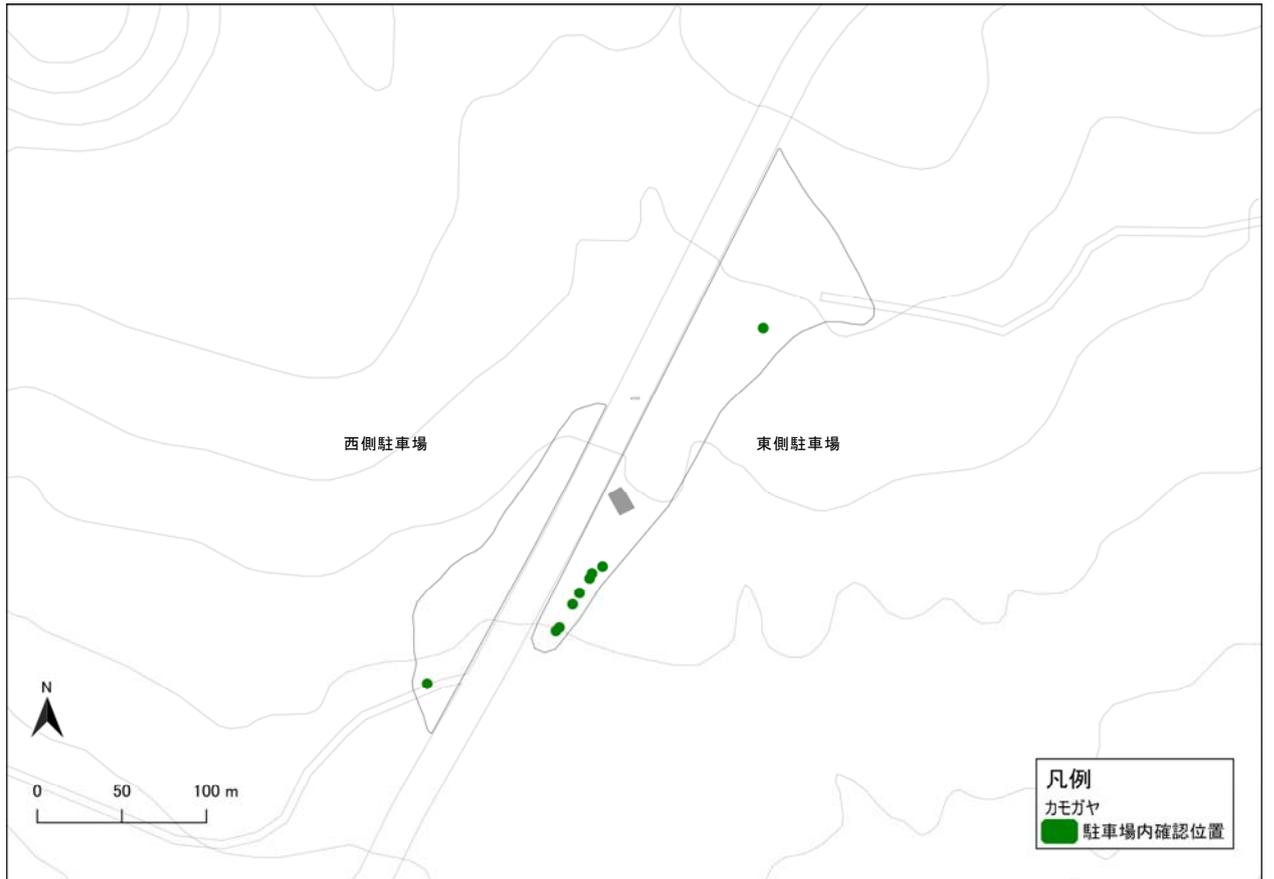


図 2.2.9 カモガヤの確認位置図（西白塚駐車場内）

3) オニウシノケグサ (イネ科)

オニウシノケグサは、ふじあざみラインの下り線で2区画5地点15個体を確認した。確認地点の環境は道路脇の草地であった。7月調査時に開花・結実を確認した。

オニウシノケグサの種の解説を以下に示す。

表 2.2.23 種の解説 (オニウシノケグサ)

種名等 ¹⁾	オニウシノケグサ (イネ科) 別名・流通名：トールフェスク、ケンタッキー31 フェスク
外来植物 選定基準	外来生物法：- 生態系被害防止外来種リスト：適切な管理が必要な産業上重要な外来種 (産業管理外来種)
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	II. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件 ¹⁾	
特に問題になる 地域や環境 ¹⁾	里草地、河川堤防などの半自然草地、亜高山帯の草原
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパ、北アフリカ、西アジア原産。アフリカ南部、オーストラリア、北アメリカ、南アメリカ、体制四諸島の亜寒帯～暖帯に分布する。国内へは1905 (明治38) 年に導入、北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。亜高山帯の自然公園にも侵入。
特徴 ^{1),2)}	多年草。高さは0.5-2m程度。花期は7-10月。両性花。風媒花。地下茎と地中深く伸びる根群により耐旱性がある上、耐暑性は寒地型牧草の中では最強である。耐寒性もある。
生育環境等 ¹⁾	牧草地、市街地、運動場、庭、路傍、荒地、河原、林縁等に生育する。日当たりの良い、肥沃で水分の豊富な所を好む。
影響 ¹⁾	北海道や本州の亜高山帯にある国立公園の自然草原へ侵入し、草原に特有な希少種等への影響が問題となっている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報 (根拠情報) <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 2) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>
環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

表 2.2.24 オニウシノケグサ確認状況



ふじあざみライン下り線区画 No. 24

(令和元年7月9日撮影)

表 2.2.25 オニウシノケグサ確認結果

No.	科名	種名	外来植物選定基準		須走口五合目 駐車場内・周辺	ふじあざみライン						西臼塚駐車場内		全体			
			外来生 物法	外来種 リスト		上り線		下り線		西側		東側		地点	個体		
					区画	地点	個体	区画	地点	個体	地点	個体	地点			個体	
3	イネ	オニウシノケグサ	-	産業	-	-	-	-	2	5	15	-	-	-	-	5	15

注) 外来植物選定基準

- ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号)
 - ・我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成 27 年 3 月 26 日公表)
- 【カテゴリ】産業：適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)

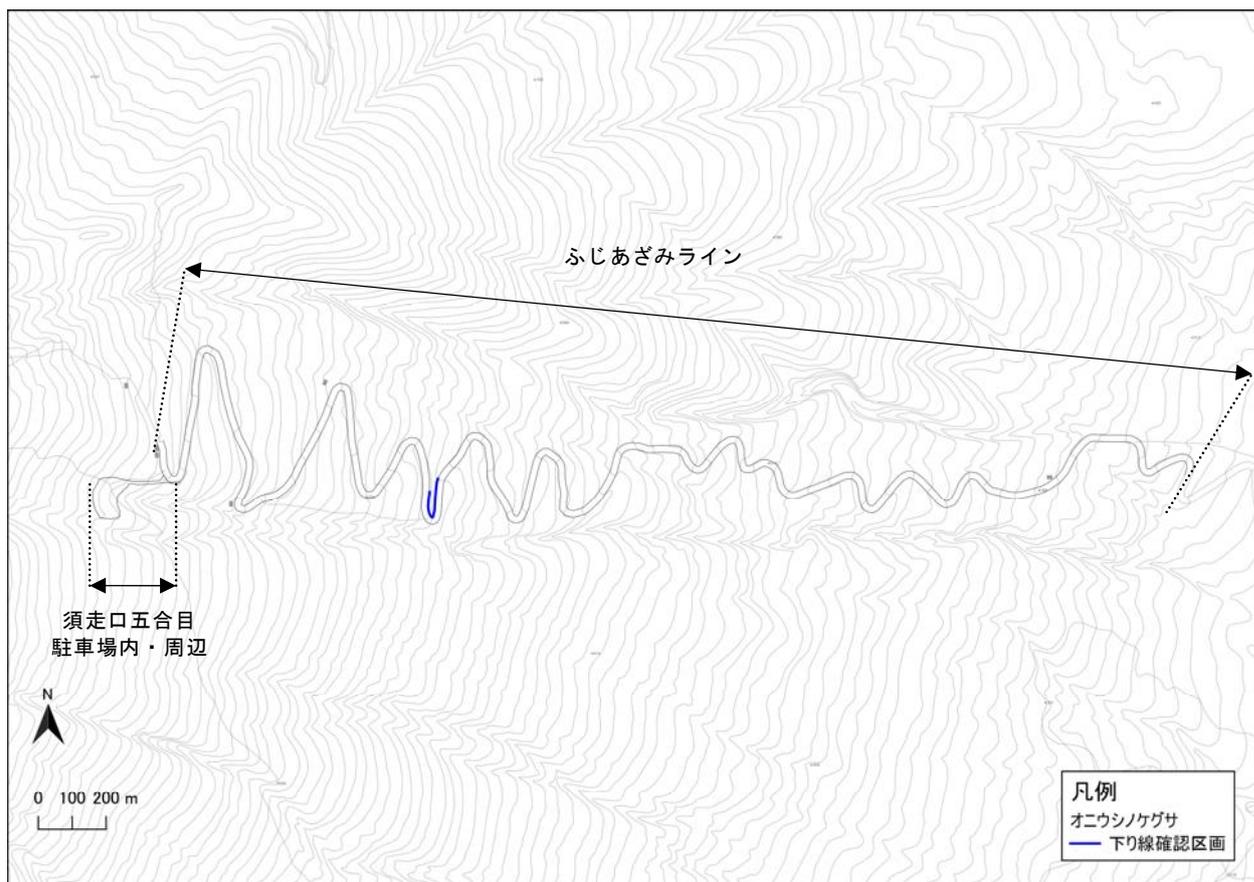


図 2.2.10 オニウシノケグサの確認位置図(須走口五合目駐車場内・周辺～ふじあざみライン馬返しバス停付近)

4) オオアワガエリ (イネ科)

オオアワガエリは、西臼塚駐車場で5地点270個体を確認した。確認地点の環境は駐車場脇の草地であった。7月、9月調査時に開花・結実を確認した。

オオアワガエリの種の解説を以下に示す

表 2.2.26 種の解説 (オオアワガエリ)

種名等 ¹⁾	オオアワガエリ (イネ科) 別名・流通名：チモシー
外来植物 選定基準	外来生物法：- 生態系被害防止外来種リスト：適切な管理が必要な産業上重要な外来種 (産業管理外来種)
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	II. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。 IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件 ¹⁾	
特に問題になる 地域や環境 ¹⁾	亜高山帯や山地の草原
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパからシベリア原産。ヨーロッパ、アジア、オセアニア、北アメリカ、南アメリカの温帯に分布する。国内へは明治初期に入り、北海道、本州、四国、九州に分布。
特徴 ^{1),2)}	多年草。高さ0.5-1m。開花期は6-8月。両性花。風媒花。茎の基部節間が肥大した球茎により繁殖する。
生育環境等 ¹⁾	畑地、樹園地、路傍、荒地に生育する。冷涼で多湿の気候を好み、肥沃な日当たりの良いところに多い。
影響 ^{1),2)}	自然草原への侵入が問題となっている。北海道や、本州の亜高山帯にある国立・国定公園など、自然性の高い環境や希少種の生育環境に侵入し、駆除の対象になっている。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報 (根拠情報) <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 2) 要注意外来生物リスト 要注意外来生物に係る情報及び注意事項 <植物>
環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html>)

表 2.2.27 オオアワガエリ確認状況



表 2.2.28 オオアワガエリ確認結果

No.	科名	種名	外来植物選定基準		須走口五合目 駐車場内・周辺	ふじあざみライン						西臼塚駐車場内		全体		
			外来生物法	外来種リスト		上り線		下り線		西側		東側		地点	個体	
					地点	個体	区画	地点	区画	地点	個体	地点	個体			
4	イネ	オオアワガエリ	-	産業	-	-	-	-	-	-	-	-	5	270	5	270

注) 外来植物選定基準

- ・特定外来生物による生態系に係る被害の防止に関する法律(平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号)
 - ・我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成 27 年 3 月 26 日公表)
- 【カテゴリ】 産業：適切な管理が必要な産業上重要な外来種（産業管理外来種）

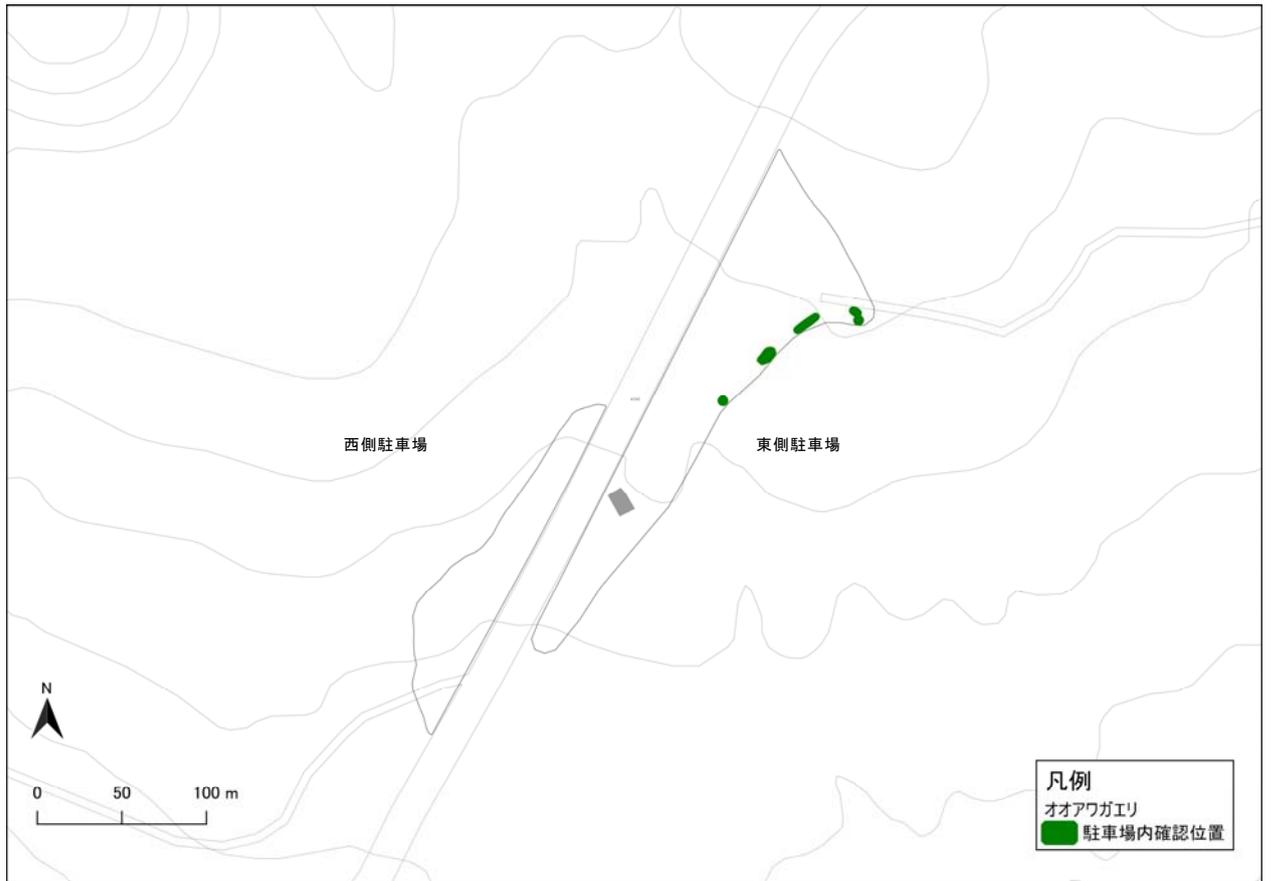


図 2.2.11 オオアワガエリの確認位置図（西臼塚駐車場内）

5) ナギナタガヤ (イネ科)

ナギナタガヤは、西臼塚駐車場で 8 地点 1,813 個体を確認した。ナギナタガヤは西臼塚駐車場の西側駐車場内に面的に広がっており、正確な個体数の把握は困難であるため、概略個体数を記録した。確認地点の生育環境は明るく開けた草地であった。7 月調査時に開花・結実を確認した。

ナギナタガヤの種の解説を以下に示す。

表 2.2.29 種の解説 (ナギナタガヤ)

種名等 ¹⁾	ナギナタガヤ (イネ科) 別名・流通名：ネズミノシッポ
外来植物 選定基準	外来生物法：- 生態系被害防止外来種リスト：適切な管理が必要な産業上重要な外来種 (産業管理外来種)
定着段階 ¹⁾	分布拡大期～まん延期
選定理由 ¹⁾	IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
対策優先度の 要件 ¹⁾	
特に問題になる 地域や環境 ¹⁾	海岸砂地、草原
原産地・分布 ¹⁾	ヨーロッパ～西アジア原産。アフリカ、アジア、オーストラリア、南北アメリカ、大西洋諸島、太平洋諸島などの温帯～暖帯に分布する。オーストラリアでは侵略的である。国内へは明治初年に入り、北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。
特徴 ^{1),3)}	一年草。高さ 0.6m。株立ちとなって根茎がなく、全体に粉緑色をおびる。花期は 5-6 月。
生育環境等 ¹⁾	畑地、牧草地、庭、路傍、荒地などに生育する。日当たりの良い砂質土壌を好む。海辺の砂地、乾いた草地に多い。
影響 ¹⁾	海外で侵略的な外来種とされ、日本でも河川等で分布を拡大している。

出典 1) 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報 (根拠情報) <植物>
環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/press/100775.htm>)

出典 3) 大橋広好, 門田裕一, 木原浩, 邑田仁, 米倉浩司 (2016) 改訂新版日本の野生植物 2 イネ科～イラクサ科, 平凡社.

表 2.2.30 ナギナタガヤ確認状況



表 2.2.31 ナギナタガヤ確認結果

No.	科名	種名	外来植物選定基準		須走口五合目 駐車場内・周辺	ふじあざみライン						西白塚駐車場内		全体				
			外来生物法	外来種リスト		上り線			下り線			西側		東側		地点	個体	
					地点	個体	区画	地点	個体	区画	地点	個体	地点	個体	地点			個体
5	イネ	ナギナタガヤ	-	産業	-	-	-	-	-	-	-	-	6	1,563	2	250	8	1,813

注) 外来植物選定基準

- ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成16年6月2日法律第78号)
 - ・我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)(平成27年3月26日公表)
- 【カテゴリ】産業：適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)

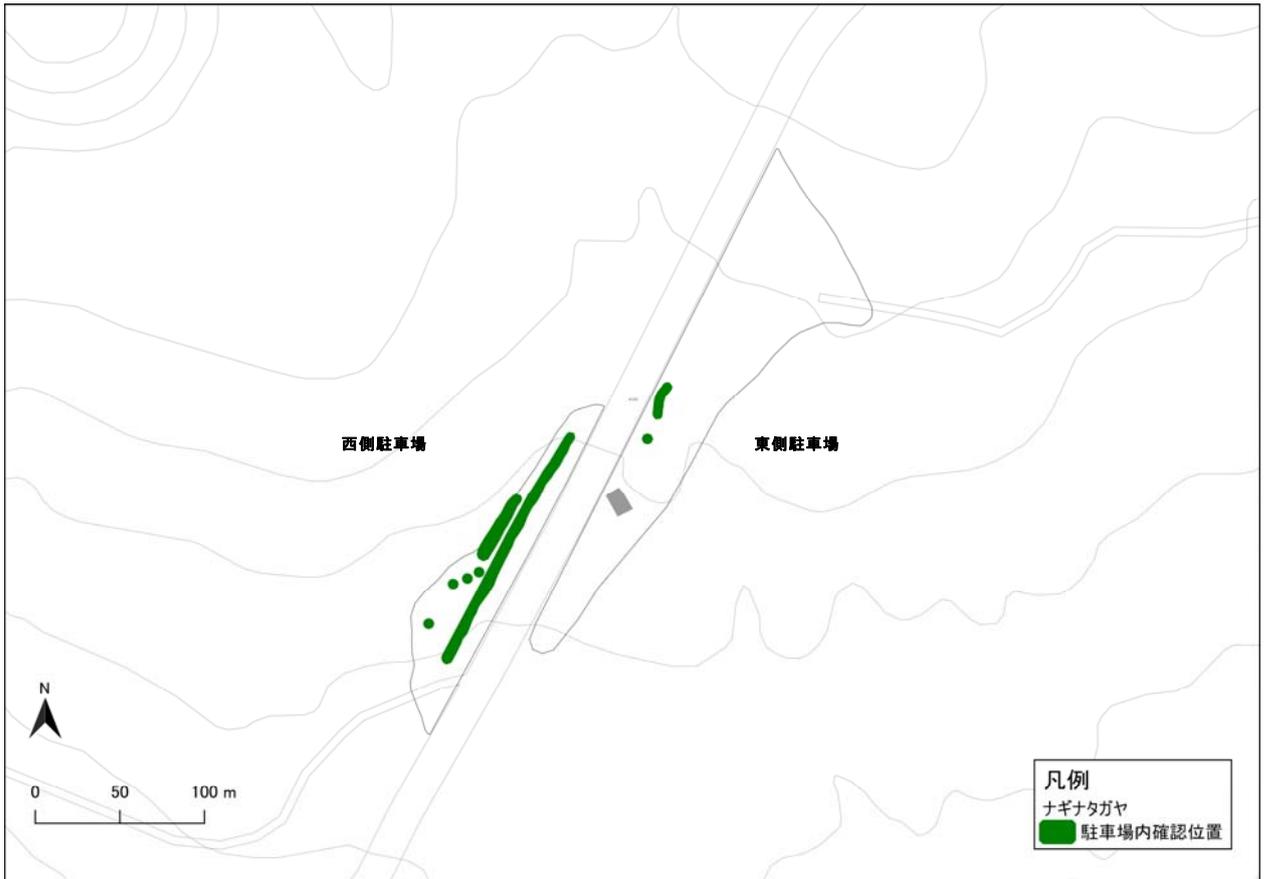


図 2.2.12 ナギナタガヤの確認位置図(西白塚駐車場内)